

## 研究力強化に向けた研究拠点の在り方に関する懇談会について

平成28年9月14日

文部科学省研究振興局長決定

## 1. 趣 旨

これまでの関係審議会の報告書等や学術研究・基礎研究の推進に関する政府方針を踏まえ、研究面で国際競争力を有する大学の層を厚くし、我が国の研究力を強化するため、目指すべき拠点支援施策の全体像や、その実現に向けた総合的な取組の在り方について検討を行い、関係審議会における審議の参考に供する。

## 2. 検討事項

研究力強化に向けた研究拠点の在り方について

## 3. 構 成

- (1) 本懇談会は、別紙の有識者により構成するものとし、文部科学省研究振興局長の指名により、主査を置くものとする。
- (2) 本懇談会には、必要に応じて、別紙以外の有識者を参画させることができるものとする。

## 4. 開催期間

平成28年9月14日から平成29年3月31日まで

## 5. その他

本懇談会の庶務は、関係局課の協力を得つつ、研究振興局振興企画課学術企画室において処理する。

研究力強化に向けた研究拠点の在り方に関する懇談会 委員

稲永 忍	長崎県公立大学法人理事長、株式会社トーエル特別顧問
浦野 光人	ニチレイ相談役
大垣 眞一郎	東京大学名誉教授
大島 まり	東京大学大学院情報学環・生産技術研究所教授
金子 元久	筑波大学特命教授
黒木 登志夫	日本学術振興会 学術システム研究センター顧問
小林 傳司	大阪大学理事・副学長
小林 良彰	慶應義塾大学法学部教授
菅 裕明	東京大学大学院理学系研究科教授
高橋 真木子	金沢工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科教授
主査 平野 眞一	上海交通大学講席教授・学長特別顧問・平野材料創新研究所長
松浦 善治	大阪大学微生物病研究所長
宮浦 千里	東京農工大学副学長
結城 章夫	山形大学名誉教授（前山形大学長）

## 研究力強化のための研究拠点の在り方に関する懇談会 現時点の方向性

(我が国の研究力の課題)

- 我が国の研究力の強化に向け、イノベーションの源である多様で卓越した知を生み出す基盤である学術研究・基礎研究の強化が不可欠であるが、以下のような課題がある。
  - ― 論文指標（総論文数や高被引用度論文数）は、世界各国が伸びる中で日本は横ばい。相対的に地位は低下。
  - ― 国際共著論文の割合の低下など、我が国の存在感が後退。
  - ― 新たに広がっていく研究領域に参画できていない。
- アイデアを生み出す若手人材について育成・確保が脆弱化。

(これまでの研究拠点政策の課題)

- 21世紀 COE プログラムや世界トップレベル拠点形成プログラム（WPI）など個々の拠点において優れた成果を挙げているが、日本全体としてみると、事業間の連携が不十分で、研究者の負担の増加など、我が国全体の研究力の向上に繋がっているかの懸念。
- 近年の拠点事業の支援規模の大型化と支援拠点数の減少で、アクティブな研究者の分布と形成事業の採択実績が乖離。地方にある大学が強みを生かせないなど、日本全体で研究者（特に若手）の流動性が低下し、新たなアイデアが生まれにくいとの指摘。

(今後の拠点政策の方向性)

- 以上のような課題を克服し、我が国が常に多様で卓越した知を生み出していくためには、個人に対する「研究費」や「人材育成」に関する施策の改革・強化に併せて、「研究拠点」に関して、世界レベルの組織的な研究活動の厚みを質・量共に増すための強化策が不可欠。
- 具体的には、研究面で国際競争力を有する大学の層を厚くし、人材の好循環を促進し、我が国全体の研究力を強化するためにも、世界トップレベルの研究拠点に対する支援を強化するとともに、全国に点在する、特定分野において我が国の研究をリードし、世界に通用する研究拠点に対する支援を行うことが必要。
- その際、多様性・独創性の観点、若手研究者の育成の観点を含めた施策の有機的連携が重要。加えて、人材育成に関する施策、大学改革に関する施策等とも連携して運用し、各事業間での相乗効果を生んでいくことが重要。

(世界トップレベル研究拠点形成プログラム (WPI))

- 優れた研究環境と高い研究水準を誇る世界トップレベルの研究拠点の形成を継続して推進し、最大で 20 拠点程度を目途に形成。
- 新たな枠組み“WPI アカデミー”を構築し、WPI 発の優れた成果のプログラムの枠を超えた展開・波及に着手。

(共同利用・共同研究体制)

- 共同利用・共同研究体制により、全国の研究者の知を結集した効果的な先端研究を推進し、国内外のネットワークの構築、異分野融合や学際領域研究の展開、国際的な研究拠点との連携などを推進。
- 特に、国際拠点としての機能を活かした学術の大型プロジェクトの推進により、ノーベル賞受賞につながる研究成果を創出するなど、世界の学術フロンティアを先導。

(特定の分野で我が国をリードする研究拠点)

- 特定の分野で我が国の研究をリードし、世界と競争できる研究拠点となり、関連分野の研究拠点等とのネットワークを強化し、地方を含め、拠点間を通じた人材の好循環サイクルを促進し、我が国全体の研究力を向上。
  - 拠点の規模や分野の特性に応じた柔軟な支援
  - 長期間 (10 年程度) の支援
  - 地域ニーズとの連携
  - 共同利用・共同研究体制との連携

(研究拠点施策の推進にあたっての留意点)

- 拠点の改革の成果の大学全体への波及、各大学の機能強化の取組との連動
- 拠点の形成・維持にあたっての大学のグランドデザインとそれに応じた組織の再編成や運営体制
- 優れた取組の継続性の確保に向けた仕組みの構築
- 関連分野の大学院教育との連携
- 産業界との連携 (流動性の促進、シーズの橋渡し)